

特集

社会保障改革と病院の将来

本号の特集テーマは「社会保障改革と病院の将来」である。「医療崩壊」「医療再生」といったテーマが連日のようにメディアで取り上げられ、医療や病院をめぐる課題は今や社会全体のあり方と深く関わるものとなっている。この場合、それは今後の「社会保障」をどうするかという話題と不可分のものであり、また、これからの日本社会をどのようなものにしていくかという基本的なビジョンと深く関わるという意味で、「政治」と表裏一体のものともなっている。

本号が刊行される時期は、おそらく総選挙も間近と呼べる時期であることが予想されるが、5月に民主党の新代表が選ばれたこと等も含め、政治の動向は予断を許さないものである。しかし本特集では、そうした“政局”的な動きを注視するというよりは、むしろ中長期的かつ公共的な視点に立って、(国の将来像を骨太に論ずるという)本来の意味での政治との関連を含めた社会保障改革と病院のこれからについて幅広い角度から光をあててみたい。

このうち、「私の社会保障ビジョン」は本特集の1つの核になるもので、現役の若手国会議員の方に自らの社会保障そして医療・病院の将来像についてのお考えを提示していただくという内容であり、本誌としても従来にない新たな試みである。一方、昨年11月に公表された「社会保障国民会議」の最終報告では、医療・介護サービスや提供体制の将来ビジョンに関する大胆なシミュレーションが示されたが、それについて担当官自らに解説いただいた論文も収載している。加えて、社会保障改革は多くの当事者ないしステークホルダーが関わるテーマであり、経済界、労働組合、有識者からの視点や見解をいただいた。

本特集が、今後の社会保障、医療、そして病院の将来を考えるにあたっての基礎資料、そして何らかのヒントになれば、このうえない幸せと感じる次第である。

広井 良典

千葉大学法経学部総合政策学科教授